編集後記

子どもの育ちの支え手には、いろいろな人がいる。ずっと続けて世話する人と、時折、あるいはたまにだけ出会う人。続けて見ているようでも、実は、かならず「他人」に委ねざるを得ないのが保育であり、それで救われる面もある。この「他人」には当の子ども自身も含まれると言うと、極論だろうか。人に委ね責任をシェアしながら、自分にできることの際限を測り測りしているという保育者の図が浮かぶ。

久しぶりに再会した卒業生の親に「いまのままでいいんじゃないですか」と受容する保育者と、それで「気が楽に」なる親（津守先生）。成長したわが子の言葉をヒントに、養成校の学生を理解し受け止めようと奮闘する塚田先生。伊藤先生は「親性」とは「親とならない場合であっても、次世代の誕生と健やかな発達を支援する社会の一員としての備えていくべき資質」を含むものだと言う。「ラジオのおっちゃん」（庄籠先生）は自分では意識していないが、子どもたちの「親性準備性」を育てているとはいえないだろうか。

ドイツでメルヘンが反教育的だとして子どもから遠ざけられていた時代に「子どものためのメルヘンが不足している」と嘆く母親がいた（佐藤先生）ことに驚いた。子どもを教育の対象と考える以前に、生き生きとした好奇心や笑顔で輝く子どもの姿を見たいと願うというところに保育は始まるのではないか。（浜口）

幼児の教育

第一〇四巻 第五号
（二〇〇五年五月号）
定価五五〇円（本体五二四円）

発行 平成十七年五月一日
編集兼発行人 浜口順子
発行所 日本幼稚園協会
〒112—8610 東京都文京区大塚二—一—一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
印刷所 図書印刷株式会社
〒108—8620 東京都港区三田五—二二—一
発売所 株式会社 フレーベル館
〒113—8611 東京都文京区本駒込
六—一四—九
☎〇三—五三九五—六六一三（営業）
☎〇三—五三九五—六六〇四（編集）
振替 〇〇一九〇—二—一九六四〇

☆ 本誌ご購読のご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。